



(R01)

改 定（令和6年4月1日以降適用）	現 行（令和4年4月1日以降適用）	備 考
<p style="text-align: center;"> 共通仕様書（I） （ 土木工事共通仕様書 土木工事共通特記仕様書 ） 令和 6 年度以降 令和 6 年 4 月 1 日以降適用 岩手県県土整備部 </p>	<p style="text-align: center;"> 共通仕様書（I） （ 土木工事共通仕様書 土木工事共通特記仕様書 ） 令和 4 年度以降 令和 4 年 4 月 1 日以降適用 岩手県県土整備部 </p>	<p>適用年の修正</p>

改 定（令和6年4月1日以降適用）	現 行（令和4年4月1日以降適用）	備 考
<p>1-1-1-4 1. 一般事項 (15) 法定休日・所定休日（週休二日の導入） (16) その他</p> <p>1-1-1-19 4. 建設副産物 受注者は、コンクリート、コンクリート及び鉄からなる建設資材、木材、アスファルト混合物等を工事現場に搬入する場合には、法令等に基づき、再生資源利用計画を作成し、施工計画書にその写しを添付して監督職員に提出しなければならない。 また、受注者は、法令等に基づき、再生資源利用計画を公衆が見やすい場所に掲げなければならない。</p> <p>5. 再生資源利用計画 受注者は、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥または建設混合廃棄物等を工事現場から搬出する場合には、法令等に基づき、再生資源利用促進計画を作成し、施工計画書にその写しを添付して監督職員に提出しなければならない。 また、受注者は、法令等に基づき、再生資源利用促進計画を公衆が見やすい場所に掲げなければならない。</p> <p>1-1-1-21 4. 検査内容 (3) 週休二日の履行状況</p> <p>1-1-1-22 3. 検査内容 (3) 週休二日の履行状況</p> <p>1-1-1-24 10. 工事情報共有化 受注者は、監督職員及び受注者の間の情報を電子的に交換・共有することにより、業務の効率化を図らなければならない。 また、情報を交換・共有するにあたっては、工事情報共有システム（ASP）を活用することとし、最新版の「土木工事の情報共有システム活用ガイドライン」に基づくこととする。 なお、工事で使用する情報共有システムは、最新版の「工事施行中における受発注者間の情報共有システム機能要件」を満たすものとし、システムのサービス提供者との契約は受注者が行うものとする。</p> <p>11. 不具合等発生時の措置 受注者は、工事施工途中で工事目的物や工事材料等の不具合等が発生した場合、または、公益通報者等から当該工事に関する情報が寄せられた場合には、その内容を監督職員に直ちに通知しなければならない。</p> <p>図 1-1-2 標示板の例</p> 	<p>1-1-1-4 1. 一般事項 (15) その他</p> <p>1-1-1-19 4. 建設副産物 受注者は、コンクリート、コンクリート及び鉄からなる建設資材、木材、アスファルト混合物等を工事現場に搬入する場合には、法令等に基づき、再生資源利用計画を作成し、施工計画書にその写しを添付して監督職員に提出しなければならない。</p> <p>5. 再生資源利用計画 受注者は、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥または建設混合廃棄物等を工事現場から搬出する場合には、法令に基づき、再生資源利用促進計画を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。</p> <p>図1-1-2 標示板の例</p> 	<p>・国の改定に伴う改定</p>

改 定（令和6年4月1日以降適用）	現 行（令和4年4月1日以降適用）	備 考																																																																																												
<p>表 1-2-3 伐開除根作業</p> <p style="text-align: center;">表1-2-3 伐開除根作業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="4">種 別</th> </tr> <tr> <th>雑草・さき類</th> <th>倒木</th> <th>古 根 株</th> <th>立木</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>盛土高1mを 超える場合</td> <td>地面で刈り取る</td> <td rowspan="2">除去</td> <td rowspan="2">抜根除去</td> <td rowspan="2">同左</td> </tr> <tr> <td>盛土高1m以下 の場合</td> <td>根からすき取る</td> </tr> </tbody> </table> <p>1-1-1-26 週休二日の対応 受注者は、対象工事については「岩手県県土整備部週休2日工事実施要領」に基づき、週休二日に取り組むものとする。</p> <p>1-1-1-42 4. 法定外の労災保険の付保 受注者は、法定外の労災保険に付さなければならない。</p> <p>1-1-1-44 石綿仕様の有無 受注者は、建築物・工作物等の解体・改修工事を行う際、石綿（アスベスト）の使用の有無の「事前調査」を行わなければならない。石綿障害予防規則に基づく一定規模以上の工事にあつては「事前調査結果の報告」を所轄労働基準監督局に届出を行わなければならない。また、大気汚染防止法に基づき、特定粉じん発生施設を設置しようとするときは、都道府県知事に届出を行わなければならない。</p> <p>1-3-6-5 4. 狭隘・過密鉄筋箇所における締固め 狭隘・過密鉄筋箇所における締固めを確実に実施するため、その鉄筋径・ピッチを踏まえたパイプレータを用いるものとし、その締固め方法（使用器具や施工方法）を施工前に施工計画書に記載しなければならない。</p> <p>表 2-2-26 再生用添加剤の標準的性状</p> <p style="text-align: center;">表2-2-26 再生用添加剤の標準的性状</p> <p>プラント再生用</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th></th> <th>標準的性状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>動 粘 度 (80℃)</td> <td>mm²/S</td> <td>80～1,000</td> </tr> <tr> <td>引 火 点</td> <td>℃</td> <td>250以上</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱後の粘度比 (80℃)</td> <td></td> <td>2以下</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱質量変化率</td> <td>%</td> <td>±3以内</td> </tr> <tr> <td>密 度 (15℃)</td> <td>g/cm³</td> <td>報告</td> </tr> <tr> <td>組 成 (石油学会法JPI-5S-70-10)</td> <td></td> <td>報告</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 密度は、旧アスファルトとの分離などを防止するため0.95g/cm³以上とすることが望ましい。</p> <p>表 3-1-1 段階確認一覧表</p> <table border="1"> <tr> <td>ポストテンションT(I)桁製作工 プレビーム桁製作工 プレキャストブロック桁組立工 PCホロースラブ製作工 PC版桁製作工 PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工 PC押し箱桁製作工 床版・横組工</td> <td></td> <td>プレストレスト導入完了時 横締め作業完了時 プレストレスト導入完了時 縦締め作業完了時 PC鋼線・鉄筋組立完了時 (工場製作除く)</td> </tr> <tr> <td>地覆工 橋梁用高欄工</td> <td></td> <td>鉄筋組立て完了時</td> </tr> <tr> <td>トンネル掘削工</td> <td></td> <td>土(岩)質の変化した時</td> </tr> </table>	区 分	種 別				雑草・さき類	倒木	古 根 株	立木	盛土高1mを 超える場合	地面で刈り取る	除去	抜根除去	同左	盛土高1m以下 の場合	根からすき取る	項 目		標準的性状	動 粘 度 (80℃)	mm ² /S	80～1,000	引 火 点	℃	250以上	薄膜加熱後の粘度比 (80℃)		2以下	薄膜加熱質量変化率	%	±3以内	密 度 (15℃)	g/cm ³	報告	組 成 (石油学会法JPI-5S-70-10)		報告	ポストテンションT(I)桁製作工 プレビーム桁製作工 プレキャストブロック桁組立工 PCホロースラブ製作工 PC版桁製作工 PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工 PC押し箱桁製作工 床版・横組工		プレストレスト導入完了時 横締め作業完了時 プレストレスト導入完了時 縦締め作業完了時 PC鋼線・鉄筋組立完了時 (工場製作除く)	地覆工 橋梁用高欄工		鉄筋組立て完了時	トンネル掘削工		土(岩)質の変化した時	<p>表 1-2-3 伐開除根作業</p> <p style="text-align: center;">表1-2-3 伐開除根作業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="4">種 別</th> </tr> <tr> <th>雑草・さき類</th> <th>倒木</th> <th>古 根 株</th> <th>立木</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>盛土高1mを 超える場合</td> <td>地面で刈り取る</td> <td>除去</td> <td>根元で切り取る</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>盛土高1m以下 の場合</td> <td>根からすき取る</td> <td>＃</td> <td>抜根除去</td> <td>＃</td> </tr> </tbody> </table> <p>表 2-2-26 再生用添加剤の標準的性状</p> <p style="text-align: center;">表2-2-26 再生用添加剤の標準的性状</p> <p>プラント再生用</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th></th> <th>標準的性状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>動 粘 度 (80℃)</td> <td>mm²/S</td> <td>80～1,000</td> </tr> <tr> <td>引 火 点</td> <td>℃</td> <td>250以上</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱後の粘度比 (80℃)</td> <td></td> <td>2以下</td> </tr> <tr> <td>薄膜加熱質量変化率</td> <td>%</td> <td>±3以内</td> </tr> <tr> <td>密 度 (15℃)</td> <td>g/cm³</td> <td>報告</td> </tr> <tr> <td>組 成 (石油学会法JPI-5S-70-10)</td> <td></td> <td>報告</td> </tr> </tbody> </table> <p>[注] 密度は、旧アスファルトとの分離などを防止するため0.95g/cm³とすることが望ましい。</p> <p>表 3-1-1 段階確認一覧表</p> <table border="1"> <tr> <td>ポストテンションT(I)桁製作工 プレビーム桁製作工 プレキャストブロック桁組立工 PCホロースラブ製作工 PC版桁製作工 PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工 PC押し箱桁製作工 床版・横組工</td> <td></td> <td>プレストレスト導入完了時 横締め作業完了時 プレストレスト導入完了時 縦締め作業完了時 PC鋼線・鉄筋組立完了時 (工場製作除く)</td> </tr> <tr> <td>トンネル掘削工</td> <td></td> <td>土(岩)質の変化した時</td> </tr> </table>	区 分	種 別				雑草・さき類	倒木	古 根 株	立木	盛土高1mを 超える場合	地面で刈り取る	除去	根元で切り取る	同左	盛土高1m以下 の場合	根からすき取る	＃	抜根除去	＃	項 目		標準的性状	動 粘 度 (80℃)	mm ² /S	80～1,000	引 火 点	℃	250以上	薄膜加熱後の粘度比 (80℃)		2以下	薄膜加熱質量変化率	%	±3以内	密 度 (15℃)	g/cm ³	報告	組 成 (石油学会法JPI-5S-70-10)		報告	ポストテンションT(I)桁製作工 プレビーム桁製作工 プレキャストブロック桁組立工 PCホロースラブ製作工 PC版桁製作工 PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工 PC押し箱桁製作工 床版・横組工		プレストレスト導入完了時 横締め作業完了時 プレストレスト導入完了時 縦締め作業完了時 PC鋼線・鉄筋組立完了時 (工場製作除く)	トンネル掘削工		土(岩)質の変化した時	<p>・国の改定に伴う改定</p>
区 分		種 別																																																																																												
	雑草・さき類	倒木	古 根 株	立木																																																																																										
盛土高1mを 超える場合	地面で刈り取る	除去	抜根除去	同左																																																																																										
盛土高1m以下 の場合	根からすき取る																																																																																													
項 目		標準的性状																																																																																												
動 粘 度 (80℃)	mm ² /S	80～1,000																																																																																												
引 火 点	℃	250以上																																																																																												
薄膜加熱後の粘度比 (80℃)		2以下																																																																																												
薄膜加熱質量変化率	%	±3以内																																																																																												
密 度 (15℃)	g/cm ³	報告																																																																																												
組 成 (石油学会法JPI-5S-70-10)		報告																																																																																												
ポストテンションT(I)桁製作工 プレビーム桁製作工 プレキャストブロック桁組立工 PCホロースラブ製作工 PC版桁製作工 PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工 PC押し箱桁製作工 床版・横組工		プレストレスト導入完了時 横締め作業完了時 プレストレスト導入完了時 縦締め作業完了時 PC鋼線・鉄筋組立完了時 (工場製作除く)																																																																																												
地覆工 橋梁用高欄工		鉄筋組立て完了時																																																																																												
トンネル掘削工		土(岩)質の変化した時																																																																																												
区 分	種 別																																																																																													
	雑草・さき類	倒木	古 根 株	立木																																																																																										
盛土高1mを 超える場合	地面で刈り取る	除去	根元で切り取る	同左																																																																																										
盛土高1m以下 の場合	根からすき取る	＃	抜根除去	＃																																																																																										
項 目		標準的性状																																																																																												
動 粘 度 (80℃)	mm ² /S	80～1,000																																																																																												
引 火 点	℃	250以上																																																																																												
薄膜加熱後の粘度比 (80℃)		2以下																																																																																												
薄膜加熱質量変化率	%	±3以内																																																																																												
密 度 (15℃)	g/cm ³	報告																																																																																												
組 成 (石油学会法JPI-5S-70-10)		報告																																																																																												
ポストテンションT(I)桁製作工 プレビーム桁製作工 プレキャストブロック桁組立工 PCホロースラブ製作工 PC版桁製作工 PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工 PC押し箱桁製作工 床版・横組工		プレストレスト導入完了時 横締め作業完了時 プレストレスト導入完了時 縦締め作業完了時 PC鋼線・鉄筋組立完了時 (工場製作除く)																																																																																												
トンネル掘削工		土(岩)質の変化した時																																																																																												

改 定（令和6年4月1日以降適用）	現 行（令和4年4月1日以降適用）	備 考
<p>3-1-1-4 8. 遠隔臨場 工事現場又は製作工場において、確認及び立会を遠隔にて行う場合は、建設現場の遠隔臨場に関する試行要領（岩手県県土整備部）により実施するものとする。</p> <p>3-2-3-2 4. 路側防護柵工の材料 ④温泉地帯など ⑤雨水や凍結防止剤を含んだ水が長期間滞留または接触する場所</p> <p>10-6-5-3 11. 横断目地 トンネル覆工コンクリートの目地の形状は、「三角形形状」を標準とする。 なお、これによりがたい場合は、監督職員と協議しなければならない。</p> <p>10-8-5-6 4. 防錆処理 受注者は、鉄筋を露出した状態で工事を完了する場合には、防錆、防食、損傷等を受けないようにこれらを保護しなければならない。 なお、施工方法に関しては、監督職員の承諾を得なければならない。</p> <p>※国交省作成の別添「新旧対照表（国交省）」のうち、改定理由が「文言追加」及び「新規追加」に該当する箇所のみ記載している。</p>	<p>10-8-5-6 4. 防錆処理 受注者は、鉄筋を露出した状態で工事を完了する場合には、防錆のため鉄筋にモルタルペーストを塗布しなければならない。これ以外の施工方法による場合は、設計図書に関して監督職員の承諾を得なければならない。</p>	<p>・国の改定に伴う改定</p>